

次元上昇体験

種一弓

アセンションについての研究と注目度が高まっています。

本サイトでも紹介しているなわ・ふみひとさんの「2012年の黙示録」をはじめ、数々のサイトでは様々な展望を述べています。

井上勉「次元上昇(アセンション)に備えて」、地球マネジメント学会通信などの研究論文を拝見して、私の体験をもとに次元上昇について考えを述べてみようという思いに至りました。

次元上昇とは井上氏によれば、地球上のすべてのものが現在の波動レベル、意識のレベルから一層高いレベルへと上昇することを意味することとしています。歳差運動によって次元上昇の変化地点へ地球が近づくことで、あらゆる物事がバランスを失いはじめるというメルキゼデクという言葉を取り上げて、その変化の様子を説明しています。そして、現在の歳差運動周期は2012年の冬至の日に終わるといわれています。

私は自サイトで「子どもたちが次元上昇中？」でも述べましたが、現代の日本社会では3次元レベルでの通常概念や物事のしくみを守るための意識レベルが解体・崩壊しはじめていると思っています。それが次元上昇・アセンションと呼ばれる事象の始まりであるかどうかは、私にははっきりとは認識できません。

しかし根本的な変化が生じていることは間違いないと考えるのです。

私は、2003年の冬から2004年にかけて限りなく神秘に近い体験と異次元レベルでの対話を経験しました。そのことが始まって以降、すべての変化と体験と夢、異次元レベルでの対話を日記として書き留めてあります。ノート15冊以上にもなる記録は、読み返して思い出しても驚きと不思議でならない内容です。

そのような個人的な体験をもとにして、私は自分のサイトを立ち上げました。私は今も人間として人々に理解できるような言葉を使って表現しなくてはならない、という限界に挑戦し続けています。何故なら、それらの体験と内容は3次元の世界ではあまりに抽象的すぎてあまりに突飛なことであるため、表現することが難しいからなのです。精神分析・心理学者であるC・G・ユング博士もスウェーデンボルグ博士もそのような体験があることから、私自身にとってそのような言葉や表現を利用させてもらうことで、神秘を表現しようと自サイトでの表現を試みているのです。

●体験

2003年の11月、最初の兆候があったのは夢でした。普段は疲れてあまり夢を見ないかもしくは憶えていないのに、その時の夢は、夢として理解するにはあまりにもはっきりしていて言葉の隅々まで覚えていました。眼が覚めたあとの私には、爽快感と何かが始まるという予感と新しいエネルギーで満ちていました。

それから数日後のことでした。私は教会のクリスマス会の準備のため多忙にしていたが、一人家で音楽を聴きながら静かに瞑想していると、大いなるキリストが目の前に現れました。そのときの私は驚きのあまりひれ伏して泣くことしか出来なかったのです。そしてそれは神秘の連続の始まりに過ぎませんでした。

それらを全てここに書こうとすれば、大学ノート15冊以上の量になるので出来ません

が、次元上昇について関係するであろう体験と意識の変化を取り上げてみようと思います。

●自分の霊性人格が交代する

私がかつと持っていた本来の意識する自分の人格や性格は、一人の指導霊的存在によって完全に無くなりました。その指導意識は、肉体を持ちませんが呼び名を44332という番号を持っています。そしてその44332の霊的人格が私の人格と統合されたことで、私自身の意識は統合人格となったのです。彼女は私に真実の世界を見せました。その世界が私にとっては3次元でないことだけは認識できました。

全てがまったく見たことも聞いたこともないような別世界のことのように思います。さらに自分の中で統合された人格は、44332の指導方法によって、さらなる別の人格にも交代できるのです。それは、この世界の言葉で言えば、自分の家庭教師が突然おじさんになったり、老人になったり、美しい女性になったりするように変わるような感じでした。

その時々私に私の意識の指導霊性人格が交代されることで、私の意識人格も多少変わります。

まるで、自分の肉体を二つの霊が共有しているような感覚です。

●異次元世界を浮遊し、全体を眺める

あるとき私が夜眠っていると、指導霊に起こされました。そしてこれから宇宙の領域へ行くといわれました。すると、眠っている私から私の意識は抜け出しました。私の霊眼は私の頭の上のほうから、眠っている私を見つめています。そして私を連れて指導霊は空高く暗黒の宇宙へと引き上げたのです。

私は怖くなると指導霊にどのようにすればよいかを聞いていましたから、その方法に従って、44332についていきました。

暗黒が次第に七色の光の帯を描き出しました。オーロラのような膜が現れたのです。そしてそのオーロラのような波動に私たちは突入しました。

オーロラのような波打つ膜の中を通過していくと、自分の意識は宇宙次元に入り素粒子となりました。原子に戻ってしまったようでした。肉眼では見ることができない本当にほんとうに微小な粒子のひとつぶになりました。

そこは次元すらないのです。すると44332は指導波によって真実の知恵を私の意識に送りました。次元があるのは、宇宙と認識できる内側とオーロラのような膜の中を通過しているときだけだということです。今やオーロラの磁場膜というか次元膜というようなものを通過してしまったので、ここには次元は無いということです。

そのときの私の意識には何が何だかまったく理解できなかったもので、ただ眺めることしか出来ませんでした。そして私は有限宇宙と無限宇宙の全体構図を眺めて戻ってきたのです。

多分こちらの世界では2～3分かそれ以下だったかもしれません。

私はそのまま軽やかな気分ですぐに眠りにつきました。

朝起きて、すべてのことをはっきりと思い出して書き留めることができました。

●次元上昇の前の意識は

私は獣的な肉体の犠牲にならないために、霊性向上の修行訓練と学びをさせられました。

それは44日間の半断食と半睡眠でした。通常の3食を毎日1食半と、毎日8時間睡眠

に対する4時間睡眠でした。44日間休まずに継続しました。23時頃に眠りに入ると、3時頃には必ず指導霊が起こしにきます。そして朝まで宇宙の法則と真実の学びをするのです。

聖書を使ったり、ただ指導霊の言うままに文章を書き綴ったり、指導霊の神秘波動を受信して知恵を授かったり、霊的武器や宝をもらったりもしました。その間、眠いとかお腹がすいたとか思うごとに、たくさんの宇宙的波動エネルギーの力を受けたので、すぐに回復したのです。

その結果、獣的な自分の意識はついに死を迎えました。

日中あるとき、異次元での会話をしていると、私を後ろへ振り向くようイメージを送られました。私が振り向いてみると、そこには私の肉体が横たわっていました。

また霊が抜け出したのかと思うと、指導波によってそれが肉体意識の死であることを教えられました。肉体レベルでの意識は地球のあるこの世界では通用しますが、異次元または宇宙次元レベルでは通用しない不要のものなのだそうです。

私はもう自分の肉体に戻ることは出来ないのかと聞きました。

そうだといわれました。またその必要など無い。もっと高い次元の意識に再生したのだから。といわれました。そのときの私は本当にびっくりしました。臨死体験ということは聞いて知っていましたが、死んだままだとどうなるのかとすら考え、自分は頭がおかしくなってしまったときえ疑ったほどでした。

●無限宇宙と無意識のつながり

私は2004年以降、自分の体験が一体何であったのか、どうしてそうなったのか、何故私なのか、地球のどこに私の体験と共通する事象があるのかを徹底的に調査することを開始しました。何故なら私の体験はもはや精神分裂か異常であるとしか考えられないものだったからです。しかし、私は普段と何も変わらない日常生活を営むことも出来ましたし、子どもたちの養育も普通と同じように行っていました。むしろ一層全ての生活が新しく新鮮に感じられ、楽しみと喜びに満ちて生活していたというほうが正しいというようなものでした。

私は自分の誕生から追って調べてみることもしました。自分の生い立ちや生まれ、出来事や失敗と苦勞などなど。

ところが調べていくうちに、誕生から今に至った全ての過程が、この体験に至るように仕組みられているように思えてならなかったのです。その一つが、宝瓶宮の理解であり、もう一つがユングとの出会いでした。

ユングの無意識の心理学、元型の理解、錬金術と心理学のつながり、神学と神話、思想、神秘体験、個性化過程、グノーシスと密議などを読んでいく間に、まるで私の指導にユング自身の霊が来ているような感覚さえ持つほどに、まったく学んだことのない無意識の構造がどんどんと理解出来るようになったのでした。そして私はそこに一つのつながりを発見したのです。私が44332と旅した無限宇宙は、実は私自身の内側にある無意識の世界への旅であったのではないだろうか。無限宇宙が無意識と繋がっているのであれば、有限宇宙は私たちの普通の意識とつながっているはず。それは私にとって納得できる理論体系であったのでした。

●次元上昇のとき

井上氏の論文でも紹介されているトバイアスの語っている内容は、それが真実であると理解できるものであり、私にとってはあまりにも当然のことのように感じたのです。私に神的なエネルギーが入ったとき、私はこの世的な全てのものにまったく未練がなく、

頭の中も心の中もすべて神の御心のままに…というような状態でした。いわゆる彼の言う「空白状態」であったかと思えます。そして、「私は誰？」というような疑問よりも「我、在り」という気づきのみがあるということにも、まったく頷けるものなのです。

私は無限宇宙では完全に素粒子でした。そこにあるのは点在する有限宇宙が水母のように浮いていて、星辰を守っている様子でした。もはや在るものは全てなくなり、ないものが在るだけの世界。私が私である必要などない、私は宇宙の創造主の一部であるだけという意識。時空が意味するのは時空があるところにおいてのみであり、次元が進化することは何よりも自然と一体化するようなものだということの意味を理解したのです。

●日本と地球の未来の為に

私の体験は、果たして何であったのか、何のために体験したのかを私自身まだ理解しているわけではありません。この3年間に私は自分の人生の中での一生分を勉強したように思います。そして私は自分の体験をもとにこの日本を見ることが出来るようになりました。

身近な問題から世界的ニュースに至るまで、そして人間の心が描く不自然なイメージと状態を察知することができるようになりました。共時性の体験も何度かしています。日本の子どもたちだけでなく、日本全体が今、新しい時代を迎えようとしているように見えます。私の体験が日本の未来に少しでも役立つように努力することが、今の私の使命だと考えています。そして私だけでなく、地球上の人間が同じような次元上昇体験をしているならば、それこそが人類意識上昇への大きな手がかりとなっていくであろうと思うのです。

参考資料

地球マネジメント学会通信 第68号 2006年4月

「次元上昇に備えて」 井上 勉

<http://homepage3.nifty.com/earth-management/page005.html#第67号>～ (2006年)

「2012年の黙示録」 なわ・ふみひと たま出版

種一弓

種一弓の無意識の世界 <http://www.tanelq.com>